

帯広市中小企業振興協議会 交流部会（第4回）

平成19年11月26日(月) 15:00~17:00
帯広市役所 議会棟3階 全員協議会室

次 第

- 1 開 会
- 2 部会長挨拶
- 3 話題提供者（ゲスト）紹介
- 4 話題提供
十勝中部「シーニックバイウェイ」ルート構想の概要
説明：帯広商工会議所シーニックバイウェイ推進会議
- 5 議 事
 - (1) 事前配布資料の質疑応答
・とち帯広空港のあらましと搭乗率等の推移
 - (2) 協議項目(論点)について
受入環境と観光サービス
観光インフォメーション
ホスピタリティーと接客サービス
航空路線網と国際チャーター便
航空路線網の利便性
国際チャーター便就航
 - (3) 第5回部会の開催日程について
次回の協議項目(予定)
観光資源(観光拠点施設・イベント・コンベンション)
地域産業振興事業・施策(素案)
 - (4) 次回までに用意すべき資料の要望について
- 6 その他
- 7 閉 会

平成 1 9 年度

とかち帯広空港のあらまし

平成 1 9 年 4 月

帯広市空港事務所

- 1 . 帯広空港の歩み
- 2 . 帯広空港の整備
 - (1)大型化空港滑走路の完熟整備計画
 - (2)3,000M滑走路の整備構想
 - (3)管理施設整備計画
- 3 . 空港タ - ミナルビル等
 - (1)旅客タ - ミナルビル
 - (2)貨物タ - ミナルビル
 - (3)ボ - デイングブリッジ (P B B)
 - (4)今後の整備拡充構想
- 4 . 運用時間 (航空保安業務提供時間)
- 5 . 国内就航路線
 - (1)航空会社路線網
 - (2)国内定期便路線網
 - (3)今後の新規路線拡充構想
- 6 . 国際就航路線
 - (1)国際定期便路線
 - (2)国際チャ - タ - 便
 - (3)C I Q体制の現状
 - (4)今後の国際化への構想
- 7 . アクセス及び環境整備
 - (1)道路網の整備
 - (2)道路案内標識の新增設
 - (3)帯広空港区域内緩衝緑地の整備
- 8 . 資 料
 - (1)帯広空港年度別利用状況
 - (2)帯広空港貨物・郵便取扱の推移

1 帯広空港の歩み

昭和12年10月	陸上飛行場（現 十勝飛行場）として建設
昭和39年12月	帯広空港（第3種F級滑走路1,200M×30M）として供用開始し、日本国内航空（株）（現（株）日本エアシステム。以下同じ。）による帯広～札幌定期便運航開始（昭和61年4月廃止）
昭和40年 7月	日本国内航空（株）による帯広～東京定期便運航開始
昭和47年 5月	運輸省航空大学校帯広分校設置（航大専用訓練機による飛行訓練）
昭和56年 3月	現在地に帯広空港（第2種B級滑走路2,000M×45M）として供用開始。併せて航空大学校帯広分校も現在地に移転 道内4番目のジェット空港化 面積 289.7ha エプロン4バース（大2、小2）駐車場 221台
昭和60年11月	滑走路 2,500Mで供用開始（500M延長）
平成 3年11月	駐車場 393台で供用開始（172台拡張）
平成 7年12月	駐車場 534台で供用開始（141台拡張） 地上支援機材置場（GSE置場）2,000M ² 新設供用開始
平成10年 1月	駐車場 656台で供用開始（122台拡張）
平成13年 1月	国の省庁再編により運輸省は国土交通省となる
平成13年 4月	航空大学校帯広分校は独立行政法人航空大学校帯広分校となる
平成17年10月	駐車場 810台で供用開始（154台拡張）

2 帯広空港の整備

(1) 大型化空港2,500M滑走路としての完熟整備計画

航空灯火整備（平成9年度～平成17年度）

国際民間航空条約（ICAO）第14附属書（飛行場）の改正及び航空法施行規則第117条第1項第3号第2表の改定に基づき平成16年12月までに改良（性能向上）。誘導案内灯については平成20年3月31日までの経過措置期間の間に高輝度化を図る。

〔整備内容〕

灯火更新、埋込配管工法変更、電源設備更新、電源局舎増築

滑走路嵩上げ整備（航空灯火整備平行実施）

帯広空港は大型化空港として位置づけされているが、基本施設はLA1・LA12・LA2が混在し変則的であった。加えて旅客需要予測も順調に推移する見通しを踏まえ、エアラインから大型機対応施設の整備が求められていた。そのため、第7次整備計画及び社会資本整備重点計画（平成8年～平成19年）の中で実施した。

滑走路（誘導路、エプロン等を含む。）等路面性状調査を平成9年度実施。その結果を踏まえ滑走路等をLA-1（大型機対応の嵩上）整備実施。

区 分	既設滑走路強度	強度改良	備 考
滑走路・誘導路(500M)	LA-1(大型機対応)	LA-1	H9、10調査費
滑走路・誘導路(2,000M)	LA-12(中型機対応)	LA-1	〃
エ プ ロ ン 区 域	LA-2(小型機対応)	LA-1	〃
ラン プ 車 輛 通 行 帯	LT-2(小型機対応)	LT-1	〃

〔整備計画〕

平成 9年度	路面性状調査
平成10年度	需要予測調査・測量・拡幅調査・基本設計(航空灯火)
平成11年度	実施設計(滑走路・誘導路・航空灯火)・場周(保安舎)道路改良
平成12年度～平成17年度	滑走路・誘導路・エプロン等嵩上改良(航空灯火含む)
平成17年度	同上・国土交通省完了検査・告示行為

エプロン拡幅整備等（平成20年度以降）
路線等の拡充に伴い、狭隘の実態によりエプロン拡幅並びに新設を検討。
（エプロン拡幅・GSE置場拡幅・小型機専用エプロン新設等）

駐車場整備（平成20年度以降）
乗降客1万人に1台相当を基本に平成17年度154台拡張し、現在810台保有。
現在ピーク時昼間駐車1,061台(H10.1.3)夜間駐車807台(H10.1.1)となっていることから駐車場不足を生じている。

〔整備計画〕

平成20年度以降 用地取得造成 平成27年度整備目標台数 1,500台

(2) 3,000M滑走路空港の整備構想

大型化空港としての整備後、3,000M化への整備構想計画する。
帯広市次期総合計画（平成12～21年度）検討課題
〔延長要件〕 国際定期便就航又は単一路線乗降客120万人/年間
〔整備理由〕 積雪寒冷地空港としての冬期間安全運航確保のため
埋蔵文化財範囲確認調査
延長方向の検討（精密35側・非精密17側）
延長整備手法の検討（従来型空港整備事業、地方空港整備特別事業）
用地取得の検討

(3) 管理施設整備計画

空港消防車輛整備

国際民間航空条約第14附属書（飛行場）に定める8等級へ増強する。
平成10年度 8等級化更新増強（125型）1台（平成9年度債務負担）
平成12年度 更新（125型）1台（平成11年度債務負担）
平成16年度ICA0基準 増強（125型）1台（平成15年度債務負担）

空港除排雪車輛整備計画

平成17年度 スノ-スイ-パ-（更新） 1台（平成17年度債務負担）
平成21年度 スノ-ロ-タリ-（更新） 1台

空港医療搬送車輛整備

大型機対応の為、空港医療搬送作業車を増強する。
平成10年度 医療搬送作業車（7T車増車）1台

空港管理車輛整備計画

平成18年度 雪氷調査車輛（更新） 1台（平成18年度債務負担）

3 空港ターミナルビル等 (事業主体 帯広空港ターミナルビル株式会社)

- (1) 旅客ターミナルビル 昭和55年11月新築 3階建(地下1階)
平成4年4月増築(南側)
平成9年10月増築(北側) 計7,897m²
- (2) 貨物ターミナルビル 昭和55年11月新築 平屋建2棟
平成4年4月増築
平成9年10月増築 計 973m²
- (3) ボーディングブリッジ(PBB) 昭和55年11月設置、1基
平成9年10月増設、1基
平成14年度更新 計 2基
- (4) 今後の整備拡充構想
国際化対応のターミナルビル増築等の検証(国際化プロジェクト委員会設置)

4 運用時間(航空保安業務提供時間)

- (1) 昭和56年8月6日から10.0時間運用(9:00~19:00)
(2) 昭和61年7月1日から11.5時間運用(8:30~20:00)
(3) 平成12年7月1日から13.0時間運用(8:00~21:00)

5 国内就航路線

- (1) 航空会社別路線網 3社4路線
(株)日本航空ジャパン(JAL) 東京、関西
(株)ジェイエア(J-Air) 名古屋
(株)エアトランセ 函館(不定期便)
- (2) 国内定期便路線網 4路線
- | (路線) | (就航) | (現在) | (現在の要請) |
|------|---------|------------------|--------------|
| 東京線 | 昭和40年7月 | 通年4便(JAL) | 安定的な運航 |
| 関西線 | 平成4年7月 | 季節(6~9)1便(JAL) | 通年運航・2便化 |
| 名古屋線 | 平成6年3月 | 週4便(JAL) | |
| | 平成13年4月 | 通年1便(JAL) | |
| | 平成14年4月 | 路線移管(J-Air) | 2便化・就航機材の大型化 |
| 函館線 | 平成19年3月 | 不定期便毎日運航(エアトランセ) | |

- (3) 今後の新規路線拡充構想
国内路線網の拡充
九州地域 (福岡、大分、鹿児島)
北陸地域 (小松、新潟、富山)
中国地域 (広島、岡山、出雲)
四国地域 (高知、高松、徳島)
その他 (伊丹、沖縄、松本)
地方都市間コミュ-タ-便の就航促進

6 国際就航路線

(1) 国際定期便路線 なし

(2) 国際チャータ便（国内チャータ便含む）

昭和56年度～平成18年度（25年間）1,403回 延乗降客 235,397人
平成18年度 247回 延乗降客 35,874人

花蓮・台北・高雄・グアム・深圳・沖縄

就航会社名

日本航空、全日本空輸、ジャパンエアチャータ、ハレクインエア、大韓航空、
ハワイアン航空、コンチネンタル・ミクロネシア航空、キャセイパシフィック、
日本アジア航空、中国国際航空、中国南方航空、エバ航空、中華航空、マンダリン
航空、ニュージーランド航空、日本トランスオシャン航空、ユニ航空、中国東方航空
渡航先（現在まで）

ホノルル・シンガポール・ソウル・グアム・台北・濟州島・バンコク・マニラ・フィリピン・サイ
パン・デンパサル・シドニー・香港・中国昆明・ハワイ（コナ）・ニュージーランド・天津・
大連・深圳・高雄・花蓮

(3) C I Q体制の現状

税関（C）財務省 函館税関 釧路税関支署 十勝出張所（出張）
出入国管理（I）法務省 札幌入国管理局 千歳苫小牧出張所（出張）
検疫及び食品検査（Q）厚生労働省 小樽検疫所（総務課）（出張）
動植物検疫空港指定となる。（平成15年4月1日付北海道内3番目）

(4) 今後の国際化への構想

C I Q体制の充実

十勝港のC I Q体制の充実化と連携強化

国際チャータ便の就航促進（とかち国際観光推進協議会へ参画）

国際就航路線の研究・検討（韓国線、東南アジア線他）

7 アクセス及び環境整備

(1) 道路網の整備

北海道横断自動車道の早期整備

高規格幹線道路帯広 - 広尾自動車道の早期着工と早期整備

帯広 - 広尾間整備区間約80kmのうち平成5年には帯広 - 中札内間約36kmの整備計画路線
に昇格し、現在整備工事が進められている。

平成7年度からは中札内 - 大樹間約22kmの事業化が計画されている。

（北海道横断自動車道との早期接続）

地域高規格道路（帯広空港道路）の整備促進

北海道横断自動車道池田ICと高規格幹線道路帯広 - 広尾自動車道幸福ICを結ぶ地域

高規格道路（帯広空港道路）の整備促進

（平成18年3月12日帯広JCT～幸福IC暫定2車線開通）

道々帯広空港線のウエルカム道路としての整備促進

平成3～4年度、幸福28号（以平5号）交差点付近の改良整備終了

引続き同地点から帯広空港正面ゲートまでの整備促進

(2) 道路案内標識の新增設

レンタカー等の利用増によりとかち帯広空港と各観光施設間等道路案内標識の新增設。

(3) 帯広空港区域内緩衝緑地の整備

平成18年度 空港周辺植栽事業

8 資 料

(1) とかち帯広空港年度別利用状況

(平成19年3月末現在)

		H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
東 京	旅客数	549,637	527,860	565,541	569,484	535,514	520,551	541,619	548,878
	搭乗率	65.4	61.9	71.9	67.4	63.6	61.9	64.4	66.6
大 阪	旅客数	74,728	63,879	77,038	72,187	66,024	73,797	30,205	23,418
	搭乗率	62.1	53.4	80.2	59.8	55.6	61.9	72.9	74.0
名 古 屋	旅客数	62,657	58,291	68,584	24,660	22,090	22,393	27,829	26,742
	搭乗率	55.9	52.4	52.8	68.3	61.2	63.3	76.5	73.7
函 館	旅客数	-	-	-	-	-	343	8,328	5,355
	搭乗率	-	-	-	-	-	26.8	45.8	40.5
新 千 歳	旅客数	-	-	-	-	-	-	2,475	1,464
	搭乗率	-	-	-	-	-	-	31.8	26.9
福 島	旅客数	13,946	17,589	-	-	-	-	-	-
	搭乗率	56.0	46.8	-	-	-	-	-	-
計		701,004	611,619	711,163	666,331	623,628	617,084	610,456	605,857
前年度比(%)		3.4%増	5.6%減	7.5%増	6.3%減	6.4%減	1.0%減	1.1%減	0.8%減
就航率(%)		99.6	98.9	99.7	99.5	99.8	98.2	97.9	98.5
ダイヤ・ト チャ・夕・便 臨時便の利用客計		4,471	7,631	21,349	18,712	25,570	44,995	56,787	36,445
合計		705,475	619,250	732,512	685,043	649,198	662,079	667,243	642,302
(累計)		7,814,374	8,433,624	9,166,136	9,851,179	10,500,377	11,162,456	11,829,699	12,524,219
備 考			H.12.7.27 800万人達成	H.13.4.1 名古屋線毎日運航 H.13.12.26 900万人達成	H.14.4.1 名古屋線ジェイエア 路線移管(50人り) H.14.10.1 J・J経営統合	H.15.6.7 1000万人達成	H.17.3.13 函館線新規就航 (エアトランセ)	H.17.10.1 新千歳線就航 (エアトランセ) 大阪線季節運航とな る 6月-9月末	H18.6.1 関西便季節運航 (9.30まで) H18.12.1 新千歳線運休(エア トランセ) H19.3.13 函館線運休(エアト ランセ)

(2) とかち帯広空港年度別貨物・郵便取扱量

(単位:T)

		H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
貨物	積量	3,424.0	3,519.3	3,894.4	4,407.2	3,936.3	4,157.7	4,321.6	3,747.7
	対前年比	92.3	102.8	110.7	113.2	89.3	105.6	103.9	87.3
	降量	2,834.8	3,409.1	2,837.3	1,971.7	2,821.0	2,830.9	2,923.3	2,725.8
	対前年比	93.6	120.3	83.2	69.5	143.1	100.4	103.3	95.1
	小計	6,258.8	6,928.4	6,731.7	6,378.8	6,757.3	6,988.6	7,244.9	6,473.5
	対前年比	92.9	110.7	97.2	94.8	105.9	103.4	103.7	90.3
郵便	積量	967.1	1,046.1	1,170.3	1,026.1	722.6	549.4	593.6	426.2
	対前年比	90.6	108.2	111.9	87.7	70.4	76.0	108.0	73.7
	降量	1,929.3	2,304.1	2,409.8	2,214.2	1,968.8	2,401.3	2,682.1	2,497.1
	対前年比	104.6	119.4	104.6	91.9	88.9	122.0	111.7	96.3
	小計	2,896.4	3,350.2	3,580.1	3,240.3	2,691.4	2,950.7	3,275.7	2,923.3
	対前年比	99.5	115.7	106.9	90.5	83.1	109.6	111.0	91.8
合計	積量	4,391.1	4,565.4	5,064.7	5,433.2	4,658.9	4,707.1	4,915.2	4,173.9
	対前年比	92.0	104.0	110.9	107.3	85.7	101.0	104.4	85.6
	降量	4,764.1	5,713.2	5,247.2	4,185.9	4,789.8	5,232.2	5,605.4	5,222.9
	対前年比	97.8	120.0	91.8	79.8	114.4	109.2	107.1	93.2
	小計	9,155.2	10,278.6	10,311.9	9,619.1	9,448.7	9,939.3	10,520.6	9,396.8
	対前年比	94.9	112.3	100.3	93.3	98.2	105.2	105.8	89.3